

I. 広域的な観点からの検討 2. まんのう町における文化財及び公的施設等の観点からの史跡中寺廃寺跡の位置づけ

2. まんのう町における文化財及び公的施設等の観点からの史跡中寺廃寺跡の位置づけ

(1) まんのう町総合計画からの位置づけ

まんのう町総合計画は平成19年度に策定された。基本構想に将来像として《元気まんまん まんのう町—改革と協働、輝きのまち》を掲げ、まちづくりの基本方針として「元気まんまん、人が輝くまちづくり」「改革するまちづくり」「住民と行政の協働のまちづくり」を掲げている。基本計画の芸術・文化関係は次の通りである。

◆ 芸術・文化の振興

施策の大綱

文化財や記念物、生活文化や産業文化、伝統芸能などの保存・活用に努め、地域に誇りが持てるよう住民意識の高揚を図ります。また、芸術文化活動の発表や鑑賞の場や機会の充実など、住民の芸術・文化活動の支援に努めます。

基本計画

町民文化ホールや各公民館において、同好会等を中心に各種創作・研究活動や芸術文化の鑑賞などが行われています。また、日本唯一の出土であるモザイクガラス玉（町指定有形文化財）や空海が修築した満濃池（桶門が登録有形文化財）、中寺廃寺跡（国指定史跡）、綾子踊（国指定重要無形民俗文化財）、大川念仏踊（県指定無形民俗文化財）などの歴史遺産があり、かりん会館や琴南ふるさと資料館において資料展示を行うとともに、まんのう町文化財保護協会により保護活動が行われています。

今後も、住民が芸術文化にふれ、創作・研究活動に親しむ機会の充実や歴史的文化遺産の調査・保

まんのう町総合計画 基本構想

1 まちづくりの基本理念

まちがこの町に住みたい、住職後には帰りたい、高齢になっても住み続けたいと思えるまちとするため、新町建設計画を引き継ぎ、まちづくりの基本理念を「誰もが住みよい・住み続けたいまちづくり」とします。

誰もが住みよい・住み続けたいまちづくり

2 将来像(平成29年のまんのう町)

元気まんまん 自然と人々が輝くまち
まんのう町 安心と安全・快適なまち
改革と協働、輝きのまち 活力創造と改革のまち

3 まちづくりの基本方針

1 元気まんまん、人が輝くまちづくり 2 改革するまちづくり

全ての住民が元気まんまんで活動し、輝くことにより、活動的・情熱的で生き、活発な人との文化の交流を図り、さらに住民が輝くこと、プラスの連鎖が生まれるまちづくりをめざします。

3 住民と行政の協働のまちづくり

住民と行政が協力し、共に汗を流す活動のまちづくりをめざします。また、住民主体の地域クラブ活動やボランティア活動、産業活動を行って、行政が周囲から支援するまちづくりを進めます。

自由・独立・協働のまちづくり

私 共 公
個別活動 地域クラブ 産業活動
自立・競争 パートナーシップ 合規性

抜粋

I. 広域的な観点からの検討

2. まんのう町における文化財及び公的施設等の観点からの史跡中寺廃寺跡の位置づけ

存・継承・活用が求められます。町の歴史文化を活かし、多様な創作活動や文化・芸術の発表・鑑賞機会の充実、歴史遺産の保存と活用を推進し、町民の誇り意識の高揚を図ります。

文化財と伝統文化の保存と継承

- ① 歴史・文化ボランティアとの連携を図りながら、東欧から伝わった貴重なモザイクガラス玉や満濃池、綾子踊、大川念佛踊などの歴史遺産の保存と活用を図ります。
- ② ボランティアの協力を得ながら、中寺廃寺跡や満濃池の遺跡などの発掘調査をはじめ、歴史的文化遺産の調査研究と保全・活用を図ります。
- ③ 町民や観光客が歴史・文化の学習・継承ができるよう、かりん会館や琴南ふるさと資料館の展示の充実を図るとともに、学校教育や社会教育での活用、ボランティアガイドによる案内の充実を図ります。

実施計画

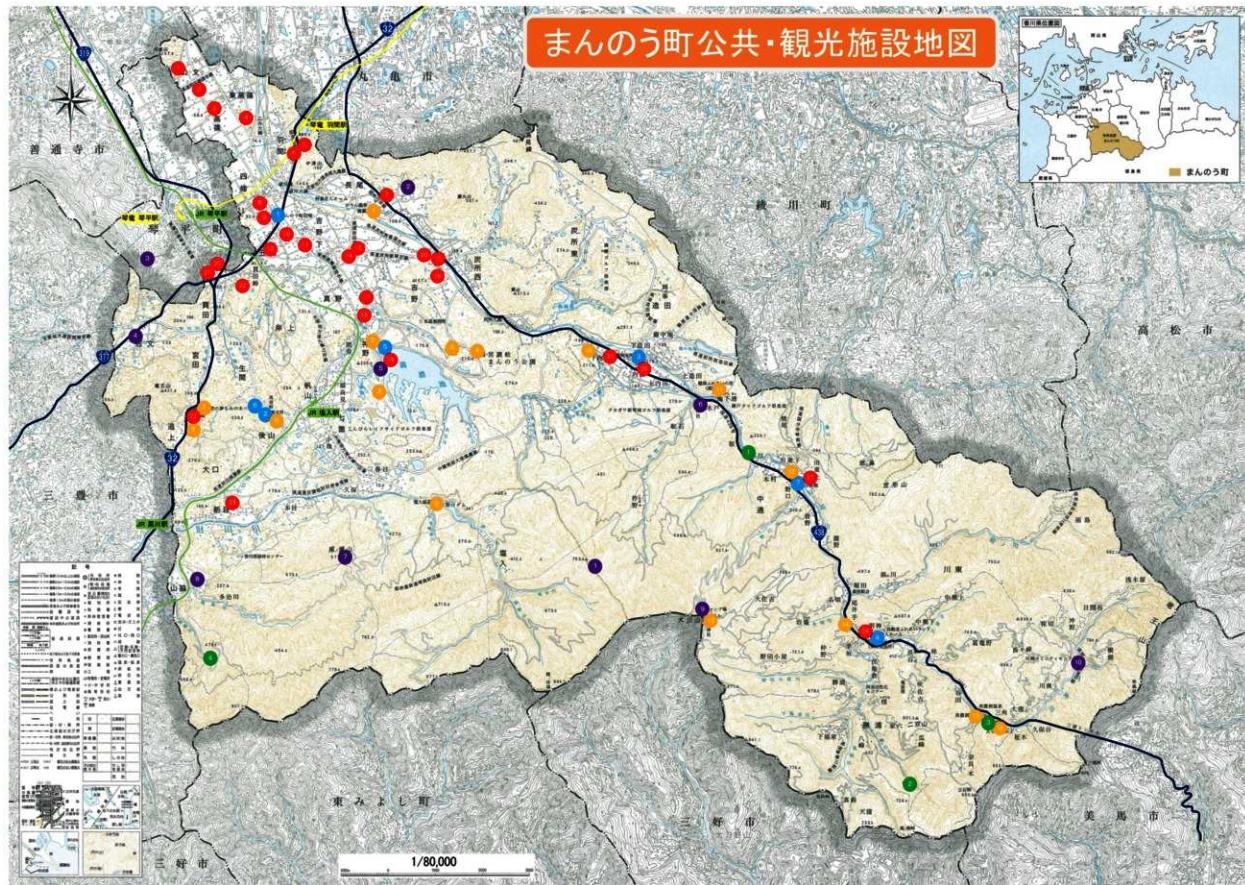
- ① 文化財ボランティア講師を養成し、ふるさと学習講座を開催します。
- ② 史跡中寺廃寺跡の保存整備を図り、遺跡説明会・ボランティアガイドによる中寺ウォーキングを実施します。
- ③ かりん会館・琴南ふるさと資料館において、文化財展を開催し、小中学校の利用を促進します。

(2) 文化的面からの位置づけ

我が国に6世紀中葉に伝わった仏教は、推古朝の仏教興隆政策によって次第にその基盤を広げ、いわゆる『国家仏教』の端緒が開かれた。以降古代律令制國家の佛教獎勵策の反映として、寺院の数は推古天皇三十二年(624)の条には46ヶ所、『扶桑略記』持統天皇六年(692)の条には「凡そ五百四十五寺」とあり、大化の革新から天武・持統天皇の時代を経て全国では相当な数に上る寺院が建立されていたことがわかる。

讃岐国における古代寺院については、先学諸氏の寺院跡、出土瓦研究から27～35ヶ寺と諸説ある一方、文献からみると平安時代の仁和2(886)年から寛平3(891)年までの4年間、讃岐国司として赴任した菅原道真の詩文集『菅家文草』には、二十八箇寺となっている。ちょうど中寺廃寺跡が営まれて約100年が経過し、B地区の建物も整備され、西播磨産の須恵器や中国越州窯産の青磁と国内外の遺物が出土し、隆盛を極めた時期と重複しているが、古代寺院研究者の間では、二十八箇寺の中に入れられていなかった。

奈良時代以前からの仏教は、平安時代初期に空海・最澄さいそうによって伝えられた密教によって多様化し、山林・山岳を修行の場とする者たちにより山林・山岳寺院が建立され、山林・山岳仏教は開花した。平安時代には平地に建立された寺院と中寺廃寺のように山林・山岳に建立された寺院があり、発掘調査の結果さまざまな成果があったことは、讃岐国における山林・山岳仏教を解明



I. 広域的な観点からの検討
2. まんのう町における文化財及び公的施設等の観点からの史跡中き庵寺跡の位置づけ

する上で重要な役目を担うものと考えられる。

(3) 公的施設等の面からの位置づけ

まんのう町内の文化財展示施設は、まんのう町中通にある琴南ふるさと資料館、まんのう町神野にあるかりん会館のみである。琴南ふるさと資料館には、現在、民俗資料と考古資料、中寺庵寺跡出土遺物を展示している。また、かりん会館では開の実物と近世以降の絵図等を中心とした満濃池に関わる展示を行っている。

現在、この2施設以外にも町内出土遺物、民具等が役場本庁・満濃農村環境改善センターなどの公共施設に分散して保管されている。これらの貴重な文化財については散逸を防ぐ必要がある

まんのう町公共・観光施設一覧表

公共施設			うどん		
1	まんのう町役場	5	かりん会館	1	山神
2	仲南支所	6	町民文化ホール	2	梅山
3	琴南支所	7	琴南公民館	3	めんくい
4	美合出張所			4	八十八亭
神社・寺等			城山		
1	中寺庵寺跡	6	天川神社	5	岡田
2	三島神社	7	尾ノ瀬神社	6	やましよう
3	金刀比羅宮	8	重田家	7	丸美家
4	加茂神社	9	大川神社	8	太郎うどん
5	神野寺	10	杉王神社	9	小縣家
観光			長田		
1	かりん温泉	2	ほたる見公園	10	川中うどん
3	県営満濃池森林公園	4	国営讃岐まんのう公園	11	一藤
5	ホッ！ステイまんのう	6	サン・スポーツランド仲南	12	みはら
7	二宮飛行館 (二宮飛行神社)	8	道の駅	13	かりん亭
9	塩入温泉	10	「空の夢もみの木パーク」	14	さめきや
11	健康ふれあいの里	12	ことなみ土器どき広場	15	山の家うどん
13	大川キャンプ場	14	琴南ふるさと資料館	16	もみの木茶屋
15	美霞洞温泉	16	美合温泉ビレッジ 美合館	17	藤よし
自然			兼平屋		
木戸の馬踏石			みはら		
小橋滝			水車		
森の谷			山の家うどん		
※高崎 弘氏作成かりん会館うどんナビより平成21年2月20日現在					

I. 広域的な観点からの検討

2. まんのう町における文化財及び公的施設等の観点からの史跡中寺廃寺跡の位置づけ

が、琴南ふるさと資料館、かりん会館では展示・保管場所が手狭となっている。将来的には廃校舎利用も含め博物館的な施設を設置して、文化財関係を集中管理し、中寺廃寺跡等の遺物も含めた各種展示・活用を計画している。

さらに町内には温泉宿泊施設である塩入温泉やビレッジ美合、美霞洞温泉、野営設備の整った大川キャンプ場、国営讃岐まんのう公園などがあり、中寺廃寺跡を始め町内外の文化財を活用した宿泊型の観光旅行も視野に入れた取り組みが期待される。

（4）文化財の面からの位置づけ

まんのう町内で文化財として周知されている寺院跡や関連文化財をあげると次ページの「中寺廃寺跡関連文化財マップ」となる。特にその中で中寺廃寺跡と関連があると考えられるものは、

①白鳳・奈良期の古代寺院である弘安寺廃寺・佐岡寺跡、②平安時代後期～中世の山林寺院である尾背廃寺跡、③平安時代後期の経塚群が所在する金剛院経塚、④弘法大師空海との関係が深い満濃池・神野神社・神野寺、以上の4地区である。これらは詳細な調査が行われていないが、これまでの断片的な調査から見えてくるものは、白鳳・奈良期の古代寺院→平安時代の古代山林寺院→平安後期～中世山林寺院、経塚群という変遷の可能性と、これらが約10kmの範囲内に所在することである。特に8世紀末～11世紀を中心とする中寺廃寺跡から12世紀～中世を中心とする尾背廃寺跡への中世山林寺院の変遷は、注目できるものと考えられる。

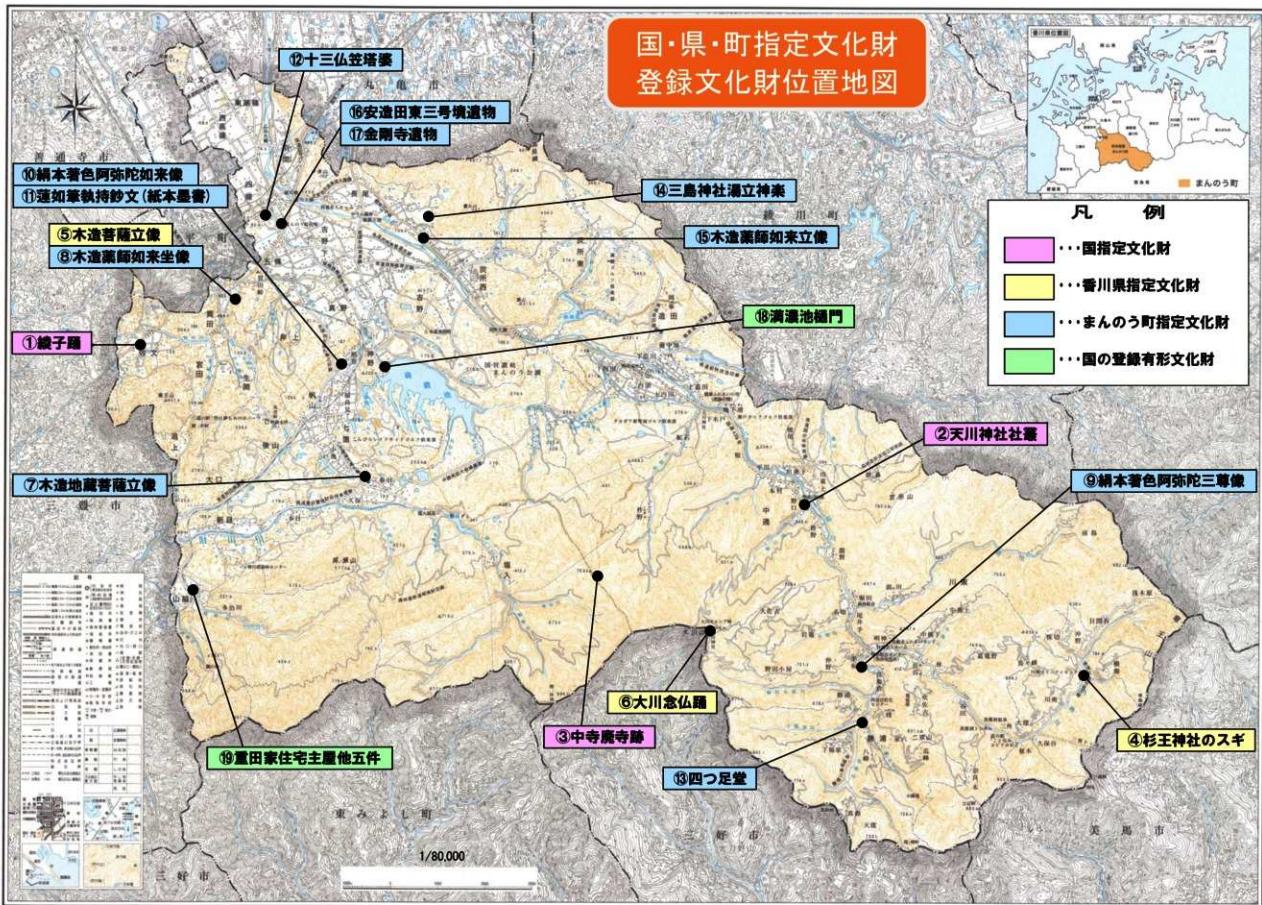
これらの遺跡が、讃岐と阿波を結ぶ金毘羅街道の一つである阿波街道（現在は国道438号線）に沿うように所在することは、国境を越えて阿波との関係においても注目できる。

町外・県外も含めると大川中寺の一坊が平地に降りてきたといわれている寺院は、まんのう町内にある称名寺、丸亀市垂水町にある淨楽寺・願誓寺、綾歌郡綾川町にある永覚寺、徳島県三好郡東みよし町にある教法寺とまんのう町周辺の市町に所在していることが分かる。県内の古代山林寺院についても高松市にある千間堂跡・中山廃寺、坂出市にある横山廃寺があり、今後の古代山林寺院ネットワークの解明や出土遺物からの評価が重要となる。

また、町内には中寺廃寺跡以外にも国指定文化財2件、県指定文化財3件、町指定文化財11件、国の登録有形文化財2件の指定・登録文化財があるが、これら文化財の中には認知度の非常に低いものも少なくない。

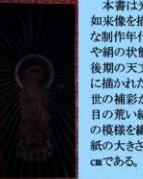
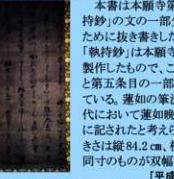
I. 広域的な観点からの検討

2. まんのう町における文化財及び公的施設等の観点からの史跡中寺磨キ跡の位置づけ



I. 広域的な観点からの検討

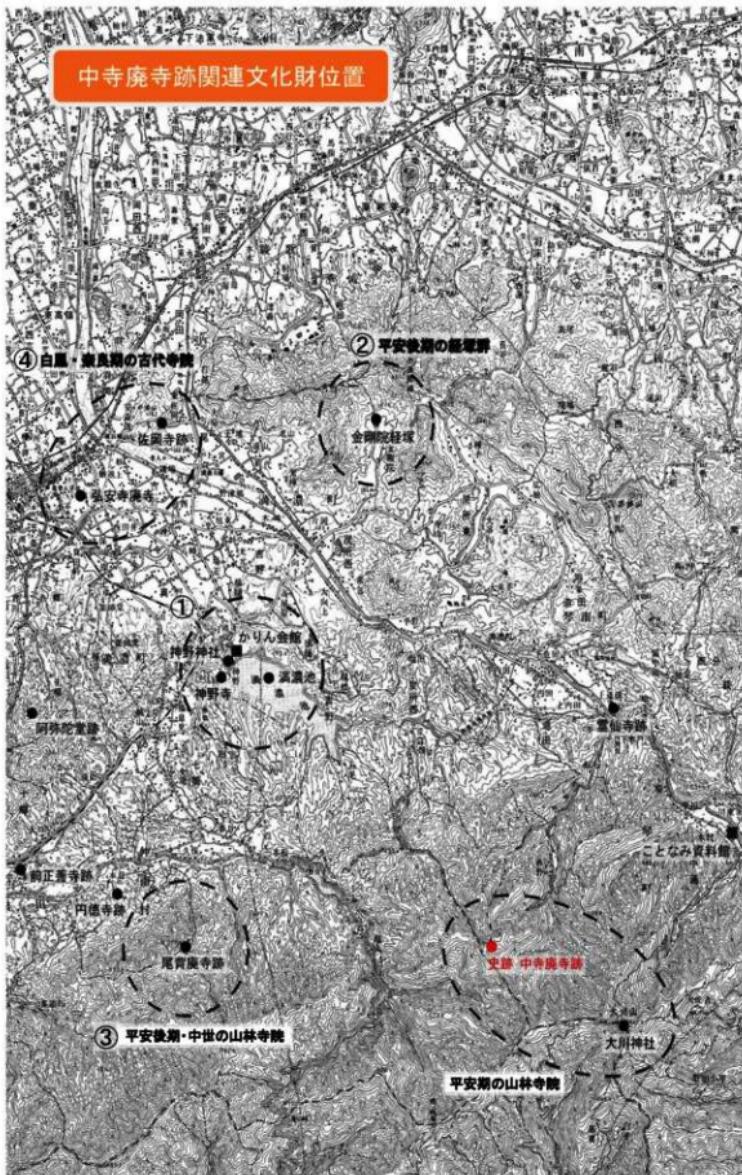
2. まんのう町における文化財及び公的施設等の創立からのお寺跡中寺磨き跡の位置づけ

<h1>まんのう町 指定・登録文化財</h1>	<p>国指定重要無形民俗文化財 ① 紬子踊(佐文)</p>  <p>隔年の8月末から9月初旬のいわゆる「日曜日」が賀茂神社において奉納される。躍は小顔6人、大顔6人ともあでやかに振袖姿で女装した男子がうねうの特徴で、踊の練習は1年ほどかかる。</p> <p>[昭和 51 年 6 月 4 日指定]</p> <p>香川県指定有形文化財(彫刻) ⑤ 木造菩薩立像(寛政・恵光寺)</p>  <p>本像は藤原時代の作とされる。髪は高めに形に整えられ、丸く短い面相に穏やかな目鼻を巧みに刻み、髪の折り返し部分が表す柔らかに影に描かれる等、この時代の代表的な作例といえる。桧材の寄木造りで像表面には金箔を貼て貼った痕跡が残る。眼は彫り込まれており、像高は 101.4cmである。</p> <p>[昭和 56 年 4 月 21 日指定]</p> <p>香川県指定無形民俗文化財 ⑥ 大川念仏踊(中道)</p>  <p>毎年秋の6月14日㈯近い日曜日に大川神社等において奉納される。他の地元の念仏踊では大鳥も担げるが、中道は鳥子も担げない、大人が補佐することが特徴である。県内の念仏踊の一大が瀧宮へ赴き奉納を行なつたことがあるために古くから雨唄を祀る信仰を集めている。</p> <p>[昭和 19 年 3 月 30 日指定]</p> <p>まんのう町指定有形文化財(書籍) ⑦ 紌本著色阿弥陀如来像(七善・円徳寺)</p>  <p>本像は光明四十八条の阿弥陀如来像を描いたものである。明確な制作年代は不明であるが、像容や絹の状態等から見て室町時代後期の天文年間(1532~1551)頃に描かれたものと考えられる。後世の補彩が認められるが、比較的の目覚え、絹本に鐵継を以て衣紋の模様を織り表現している。本紙の大きさは縦 69.7 cm、横 32.6 cmである。</p> <p>[平成 9 年 7 月 1 日指定]</p> <p>まんのう町指定有形文化財(書籍) ⑪ 運如筆執持鈔文(紙本墨書き)七善・円徳寺</p>  <p>本像は本願寺第八祖運如が執持鈔(の文の一節部分を掛け軸にするために抜き書きしたもの)である。「執持鈔」は本願寺第三代世尊が製作したものの、こちらは第二条目と第五条目の一部部分を抜き書きしている。篆書の筆法により、室町時代において運如筆の7世以降に記されたと考えられる。本紙の大さきは縦 84.2 cm、横 37.5 cmであり、同じくものとの双幅存在する。</p> <p>[平成 9 年 7 月 1 日指定]</p> <p>まんのう町指定有形文化財(書籍) ⑯ 安造田東 3 号墳遺物(まんのう町教育委員会蔵)</p>  <p>安造田東二号墳は6世紀後半~7世紀前半の横穴式石室を持つ古墳である。平安2年に進行された発掘調査の結果、県下では珍しい子持ち高杯、台付三連蓋を含む10点にも及ぶ須恵器、鉄製馬具、ガラス製品等多様な副葬品が出土した。中でも美しい模様のある大径 4.45 cm のモザイクタイルは、国内では他に見当がなく、2~4世紀頃黒海周辺で製作されたものと考えられる。</p> <p>[平成 19 年 2 月 27 日指定]</p> <p>国指定天然記念物 ② 天川神社杜叢(轟由田)</p>  <p>土器川沿いに鎮座する天川神社の社叢である。約 3ha の敷地に約 300 種類の植物が生育している。樹齢数百年とされる古木の樹を始めアカマツ、クスノキ、ブナ、タブノキ等があり、垂高も層高も木屋にはミヌグ、クバウチ、ナシテン、ジヌキ、キヌ等ある。シダコケ類は木屋の脇に豊富さを誇る。</p> <p>[昭和 55 年 12 月 17 日指定]</p> <p>国指定史跡 ③ 中寺庵跡跡(轟由田)</p>  <p>大山川(標高 1042.9m)の西尾根、標高 600~700m の辺りに広がる赤葉山林床跡である。昭和 59 年の発掘調査で、塔跡を確認し、塔心礎石下から鏡具として認められた。高木層には樹齢 800 年以上と思われる。幹の下部には空洞があり、昔子どもが 25 人入れて寝込んだといわれる木桶が現存する。木桶の上には引札など埋められている。勢はてて木屋と杉谷集落の主としてその歌謡を誇っている。</p> <p>[昭和 20 年 3 月 28 日指定]</p>
-----------------------------	---

*非公開のものもあります。平成 21 年 4 月 1 日現在。

I. 広域的な観点からの検討

2. まんのう町における文化財及び公的施設等の觀点からの史跡中寺廃寺跡の位置づけ



I. 広域的な観点からの検討

2. まんのう町における文化財及び公共施設等の観点からの史跡中寺廃寺跡の位置づけ

（5）周辺地域からのアプローチ

史跡中寺廃寺跡まで至る幹線ルート及び周辺アプローチについて、来訪者のニーズ別に区分して整理・検討する。

① 江畑道

ルート概況

江畑から入り、途中、柞野道と合流して史跡中寺廃寺跡に至る登山道。各ルートの中で徒步の距離が最短である。道幅は広く堅固であるが次第に細くなる。尾根筋に走り傾斜は平均して急。徒步で行きは40分、帰りは20分。国道438号線から江畑道入口まで車で15分。

道の歴史

昭和30年頃まで香川側、徳島側双方の人々が中寺廃寺を経由して盛んに往来していた道の一部である。大川神社から中寺廃寺跡、江畑、^{五毛}を経由して金毘羅宮に至る神社参詣の道としての利用が多かった。江畑には中寺の僧侶が菜園を営んだと伝承される「菜園場」という地名が残る。現在、丸亀市垂水町に存在する願誓寺（中寺関連遺跡位置図9）は中寺から江畑に移転され、その後、現在地に移転したと伝承されている。

景観・自然

道の周囲には鬱蒼とした広葉樹が茂り、春にはヤマザクラ、ヤマツツジの群生、初夏には新緑、秋には紅葉が美しい。平野部では観察することが難しい動植物が多く生息する。

ニーズ

大川山方面からの道より森閑な雰囲気で森林浴に適している。野生動物に会う可能性が高い。珍しい植物が多く観察できる。中寺の僧侶の往来など古の風景を想像し、地形等を考察しながら中寺までの道のりを楽しむことができる。また炭焼きという仕事の労苦や、大川神社、金刀比羅宮参詣のために行き交った人々の信仰心など様々な目線から登山を楽しむことができる。徒步の距離が短い点で手早く遺跡見学を行いたい場合に適している。

② 柞野道

ルート概況

柞野道から入り、途中、江畑道と合流して史跡中寺廃寺跡に至る登山道。道は谷筋から尾根筋へと走る。傾斜については、谷筋は緩やかであるが尾根筋に向かうにつれやや急になる。入口からルート半ばまでの道幅は平均して広く路面は堅固。徒步で行きは1時間半、帰りは50分。国道438号線から柞野道入口までは車で5分強。

道の歴史

昭和30年頃まで柞野から中寺廃寺跡を経由し大川神社参拝や炭焼きの人々が往来した道であ

I. 広域的な観点からの検討 2. まんのう町における文化財及び公的施設等の観点からの史跡中寺廃寺跡の位置づけ

る。また伐採した樹木の馬による運搬道でもあった。途中には松地谷という地名がありここに中寺の末寺があったと伝承されている。現在、まんのう町造田内田^{ないでん}に存在する称名寺（中寺関連遺跡地図7）は中寺から柞野の松地谷に移転され、その後、現在地に移転したと伝承されている。

景観・自然

道の周囲には鬱蒼とした広葉樹が茂り、一部植林地を抜ける。春にはヤマザクラ、ヤマツツジの群生、初夏には新緑、秋には紅葉が美しい。道の周囲には鬱蒼とした広葉樹が茂り、春にはヤマザクラ、ヤマツツジの群生、初夏には新緑、秋には紅葉が美しい。平野部では観察することが難しい動植物が多く生息する。入口から50分程上った所で炭焼きの窯跡が良好な状態で残る。

ニーズ

江畠道と同様の目的で利用できる。途中、炭焼き窯跡を見学し、現在は廃れてしまった炭焼きさんの生活を身近に感じるなど、地元文化の伝承に役立つと考えられる。

③ 大川道

ルート概況

大川山キャンプ場駐車場（大川神社）から笹ノ多尾（現在の中寺廃寺跡入口）を経由し中寺廃寺跡に至るルート。讃岐山脈の尾根上や尾根付近を走る道。中寺廃寺跡入口からは平行に中寺廃寺跡発掘調査作業道が走る。この作業道は中寺廃寺跡調査に際し道具運搬、調査作業員の通行の利便性を考慮し敷設した道である。駐車場から中寺廃寺跡入口までは起伏は緩やか。入口から遺跡間は傾斜が30度を超える部分が3か所、200m程度あり非常に急峻である。徒歩で行きは1時間半、帰りは2時間。国道438号線から駐車場まで車道を通り車で20分。また車道に沿って大川神社へ向かう古くからの参道が通る。

道の歴史

西村家文書に天保6（1835）年2月に高松藩主松平頼恕が鷹野^{たかの}に訪れた際に通行したという記録が残っている（中寺から大川神社）。その際に描かれた絵図には道の途中に鳥居が描かれており、大川神社の参道の一つとして利用されていたことがわかる。周辺の山林では昭和30年代まで炭焼きが盛んで、蘿の塩入、江畠、柞野への炭の運搬道として利用されていた。また徳島県三好市大平へと続く徳島側との交流道でもあった。大平には「七曲り」と伝わる道である。現在、徳島県三好郡東みよし町足代に所在する教法寺（中寺関連遺跡位置図11）は中寺から大平へと移転され、その後現在の位置に移転したと伝承されている。道沿いには石灯籠、鳥居、手水鉢、隨身門（江戸末期建造）、丁石^{ひょうせき}、標石^{ひょうせき}が現在も存在する。丁石の最も古い銘文は天保6（1835）年である。

I. 広域的な観点からの検討

2. まんのう町における文化財及び公的施設等の観点からの史跡中寺廃寺跡の位置づけ

景観・自然

尾根筋を通るため部分的に周囲の展望は広く開けている。周囲が広く開けている部分からの眺望は非常に良い。香川県側は讃岐平野をはじめ、満農池の全貌を鮮明に捉えることができる。天候の良い日には瀬戸内海の島々から岡山県、広島県までの雄大な景色を眺望することができ、さらに冬の空気が澄んだ日には鳥取県の大山を捉えることができる。徳島県側は四国山地の山並みが深々と迫り、時折、雲海が広がるなど荘厳な景色が一望できる。また景観の端には剣山を捉えることができる。徳島県側は比較的空気が澄み眺望の良い日が多い。香川県の中では徳島県を見渡すことのできる数少ない場所である。

山全体では針葉樹の植林が多い中、登山道周辺には広葉樹が多く茂り秋には紅葉が、春にはヤマザクラ、ヤマツツジの群生が美しい。特に満農池周辺から中寺廃寺跡にかけてのヤマザクラの生息数は非常に多く満開時には吉野千本桜にも劣らない景観となる。平野部では観察することが難しい動植物が多く生息する。

国道438号線から駐車場までの車道沿いには展望台が2か所設置され多度津町から高松市塩町までの、また天候の良い日には瀬戸内海から本州までの壮大な眺望が楽しめる。駐車場となっている大川山キャンプ場では野鳥が餌付けされ、至近距離で観察することができる。

ニーズ

途中からの傾斜が急峻なため健脚の方のスポーツ的な登山に向いている。また高山の眺望を存分に楽しみたい場合にも向いている。植物観察を目的とするなら、周辺では珍しいチゴユリの群生地を通る。江畑・柞野道と同様に歴史や地元文化などを考えながら歩くことのできる道である。駐車場となっているキャンプ場は野鳥の観察に適している。史跡中寺廃寺跡見学をキャンプ中の1つの企画としても利用できる。

④ 笹ノ多尾から

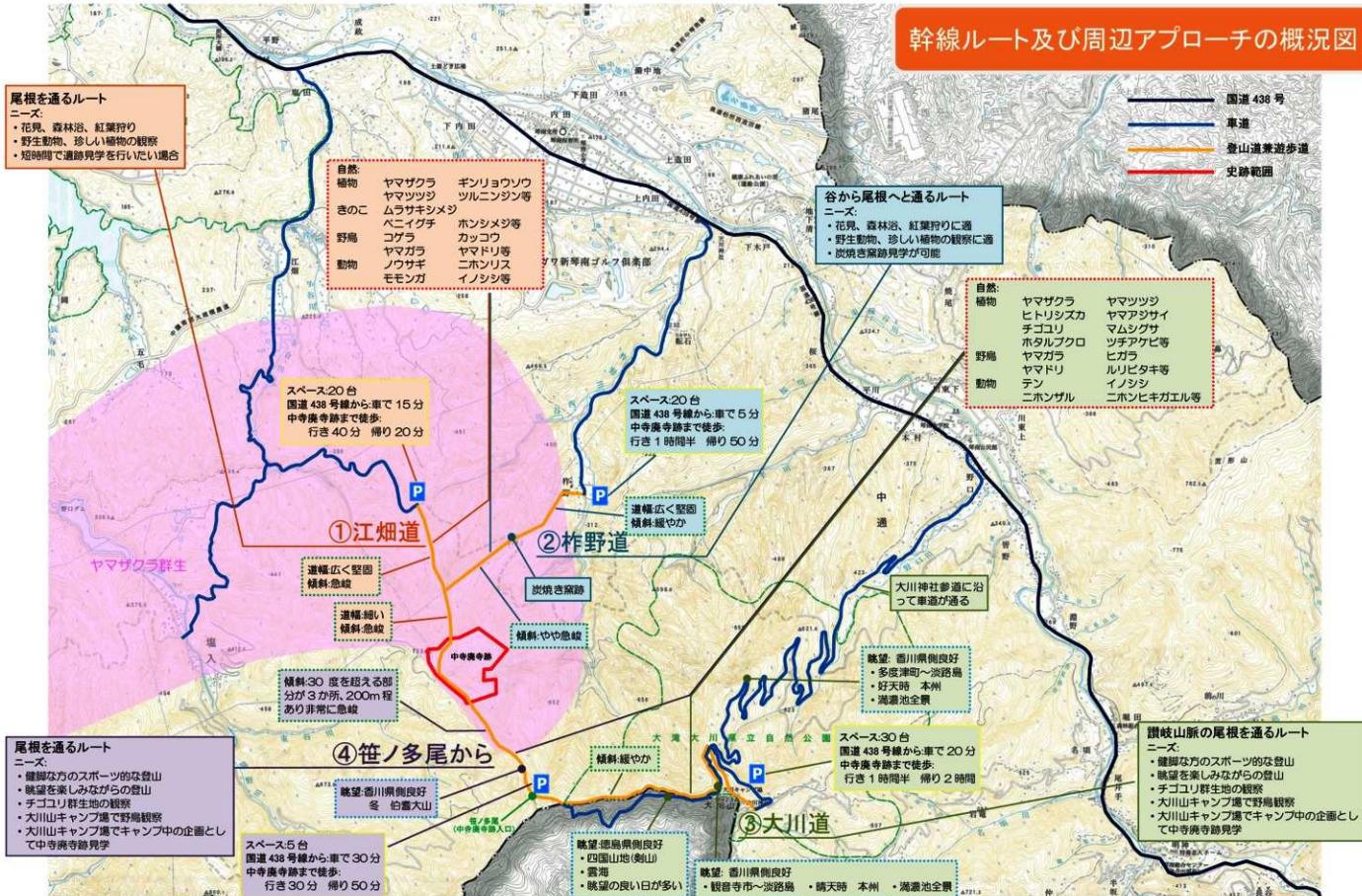
ルート概況

③大川道の歩行距離を短くしたルート。笹ノ多尾（中寺廃寺跡入口）に駐車し、史跡中寺廃寺跡まで徒歩。行きは30分、帰りは50分。国道438号線から笹ノ多尾（中寺廃寺跡入口）駐車場まで30分。

（6）史跡中寺廃寺跡の保護施策

中寺廃寺跡は、讃岐山脈から延びる尾根の標高約700mの人里離れた山間部に位置する古代山林寺院で、開発等が及ぶことがほとんどなかったために現在まで良好な状態で遺構が残存していた。近年、中寺廃寺跡周辺においてイノシシが頻繁に出没し、ミミズ等の捕食時に地面が掘り起こされる獣害が発生しているため、簡易の侵入防止ネットを設置している。平成20年度において

幹線ルート及び周辺アプローチの概況図



I. 広域的な観点からの検討 2. まんのう町における文化財及び公共施設等の観点からの史跡中寺廃寺跡の位置づけ

史跡範囲の公有化が一部を除いて完了しており、今後ともこの良好な環境を維持し、史跡として中寺廃寺跡は歴史上・学術上価値が高く、自然と融合した遺跡であることを強調しながら、自然環境と調和した整備を実施し、積極的な活用を図る。



イノシシによる被害状況（平成21年10月23日）

（7）まとめ

まんのう町内には、各時代、各種類の文化財が散在している。なかでも、中寺廃寺跡と関連があると考えられる弘安寺廃寺、佐岡寺跡、尾背廃寺跡、金剛院経塚は、白鳳・奈良期の古代寺院から古代・中世の山林寺院、経塚群という変遷の可能性と、これらが約 10 km の範囲内に所在するということは中寺廃寺跡との繋がりに注目でき、古代においては中寺廃寺が中心的役割を担っていたと考えられる。今後、県内の古代山林寺院ネットワークの解明も重要な役割を担うものと思われる。

中寺廃寺跡を始めとした町内文化財を持続性の高い観光資源とし、周辺公共施設を活用し、ボランティア団体・地元住民を主体に各種イベントを開催することにより、より一層町の活性化が図られるものと期待される。

中寺廃寺跡の整備をきっかけに住民に対して町内文化財への理解を促し、地域に誇りが持てるよう歴史意識を高め、文化及び文化財への愛着が持てるよう積極的な活用を推進する必要がある。

II. 史跡指定地及びその周辺(近接地)に関する検討

1. 史跡中寺廃寺跡の遺跡としての構成

史跡中寺廃寺跡は、東南東に開けた谷を囲むように東西 400m、南北 500m の範囲に分布する平坦地から成る。平坦地の分布状況から大きくまとめる A、B、C 地区の 3 つの地区に分かれる。谷を挟み B 地区、C 地区が A 地区を囲むように存在する。史跡指定面積は 187,713.16 m²である。

現在は樹木などが生い茂り、見通しが悪いが、これら 3 地区は谷を隔ててお互いを見通すことが可能である。

A 地区は、中寺廃寺跡の最奥部中央にあたり、南東から谷を挟み、東方向へ突出する尾根の側面に形成されたテラス群である。標高約 680～753m に各テラスが点在し、主に第 2・3・4 テラスで造構を確認している。第 2・3 テラス間の比高差は約 4 m、第 3・4 テラス間の比高差は約 3 m である。

第 2 テラスは、約 40 m²の平坦地が南の第 3 テラスに向かって開けている。桁行 3 間 × 梁間 2 間で、掘立柱建物から建て替えられた痕跡を持つ礎石建物跡を確認している。仏堂跡と考えられる特徴ある遺物として、漆付着土器杯、鉄釘、懸垂金具が出土している。

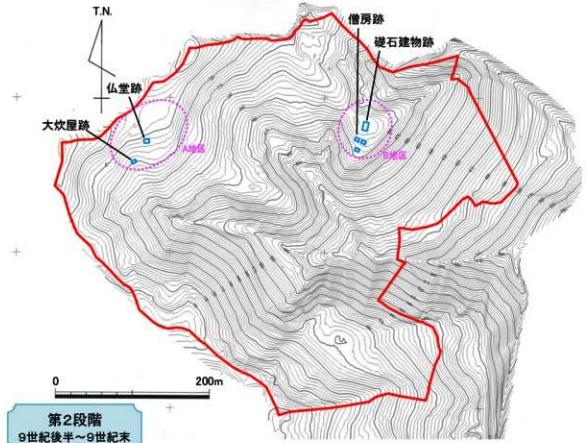
第 3 テラスは、約 70 m²の平坦地が第 2 テラスを背に南の谷に向かって開けている。桁行 3 間 × 梁間 3 間の礎石建物跡を確認している。塔跡と考えられ、第 2 テラスの仏堂跡とともに真南を向く。心礎石直下からは、中央に長胴壺、その周囲に特注品の 10 世紀前半の須恵器壺 5 個が並べられた状態で出土した。地鎮・鎮壇具と考えられる。

第 4 テラスは、第 3 テラスから南西に約 30 m 下った位置に、谷に向かって南西に開けた約 50 m²の平坦地である。仏堂跡・塔跡とは向きを揃えず、地形に制約された向きで建てられた桁行 3 間 × 梁間 2 間の掘立柱建物跡を検出した。床面一部に被熱面を持ち、大炊屋跡と考えられる。遺物としては、調理具、供膳具が多量に出土した他、西播磨産須恵器、縦窯産須恵器、黒色土器、砥石が出土している。

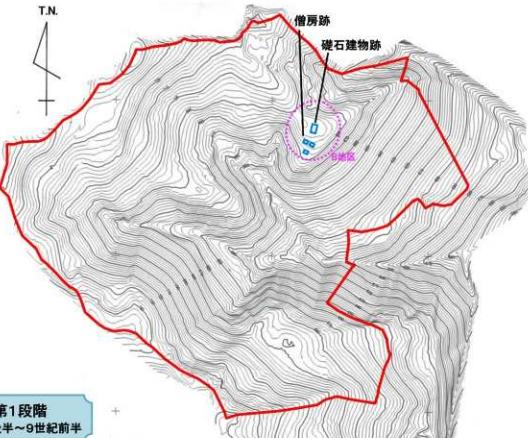
B 地区は中寺廃寺跡の北東部、標高約 689 m に位置し、第 1～3 テラスが南西方向へ突出した小尾根の先端付近に展開する。テラスの周囲は概ね急斜面であるが、第 1 テラスの北東部と北西

成立過程		
全体		8世紀後半～11世紀
第1段階	B地区	8世紀後半～9世紀前半
第2段階	A・B地区	9世紀後半～9世紀末
第3段階	A・B・C地区	10世紀前半

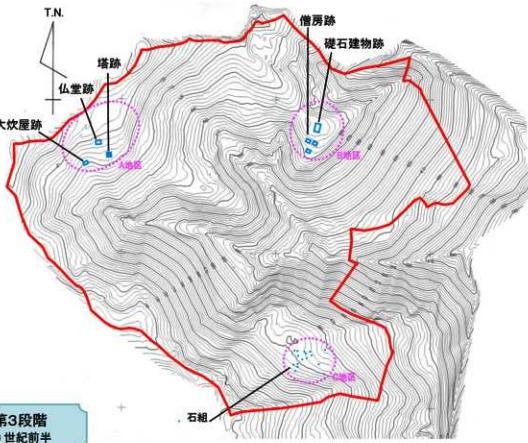
遺構の変遷



第2段階
8世紀後半～9世紀末



第1段階
8世紀後半～9世紀前半



第3段階
10世紀前半

部は緩やかな尾根が続いている。第1・2テラス間の比高差は約4m、第2・3テラス間の比高差も約4mである。

第1テラスは、小尾根の先端に位置する約300m²の平坦地である。東の谷に向かって大きく開け、大川山を一望することができる。西半には桁行5間×梁間3間の礎石建物跡が存在し、仏堂跡もしくは割拌殿と考えられる。東半には礎石建物跡東辺から続く広場状遺構が広がる。特徴ある遺物として、西播磨産須恵器、縁軸陶器が出土している。

第2テラスは、第1テラスから1段下り、谷に向かって南に開けた約60m²の平坦地である。テラス中央で南北に検出した溝の東西に、桁行3間×梁間2間の切り合いのある掘立柱建物跡5棟を検出している。僧房跡と考えられる。特徴ある遺物として、掘立柱建物を構成する柱穴より9世紀末の西播磨産須恵器が出土した他、越州窯系青磁、佐波理が出土している。

第3テラスは、第2テラスより1段下り、谷に向かって南に開けた約40m²の平坦地である。掘立柱建物跡を2棟検出している。僧房跡と考えられる。特徴ある遺物として、八葉複弁蓮華文軒丸瓦、越州窯系青磁、輪の羽口、銅三鉗鉢、銅錫杖頭、石帶が出土している。

C地区は中寺廃寺跡の南部で、北西から南東に走る尾根の北東斜面の標高約690mに広がる約810m²の平坦地である。平坦地南東の緩やかな傾斜地に石組遺構16基を確認しているが、そのほとんどが傾斜に沿って崩落している。内部を調査した3基の石組遺構は10世紀前半の遺物包含層の上に構築され、平面形は一边が約1.0~1.6mの方形を呈している。構造については、四辺の側壁にはほぼ直立に人頭大の山石を石垣状に1~4段積み上げ、その内部に拳大の山石を充填しており、内部や下部にその他の遺構は確認できなかった。永觀2(984)年成立の『三宝絵詞』(下巻)には、春2月の仏教行事として、川原に出て石を積み、造塔行為になぞらえる「石塔」がある。C地区は、この「川原」に相当し、「石塔」行事空間と理解できる。

遺構の変遷において、考古学的知見から、現在までの調査成果を整理すると、以下のようなおよその想定ができる。

まず8世紀後半~9世紀前半、B地区において利用が始まる。この時期の建物跡は確認できていないことから遺構が残らないような簡易施設が山中修行場として機能していた可能性を考えられる。次に9世紀後半~9世紀末、A地区において塔・仏堂が、B地区において礎石建物(仏堂または割拌殿)・僧房が造営される。最後に10世紀前半、A・B地区における利用が継続されながら、C地区において石組遺構群が造営される。この時点で、中寺廃寺は山林寺院として整ったと考えられる。

各地区の変遷は、整備計画事業の検討において重要な観点である。この後、理念・基本方針・ゾーニング等を打ち出す作業段階にあたり、変遷を理解した上で検討することが自然な形の整備像、単純な遺跡の集まりとならない整備像、学術的価値を守る整備像へと繋がっていくと考えられる。

II. 史跡指定地及びその周辺(近接地)に関する検討

1. 史跡中寺廃寺跡の遺跡としての構成

各地区の概要

A 地区	9世紀後半～11世紀	仏堂+大炊屋一塔
B 地区の次に利用され始めたと考えられる。	第2テラスで掘立柱建物から礎石建物に建て替えられた仏堂跡を確認している。時期は10世紀～11世紀に及ぶ。第3テラスでは塔跡を確認している。造営時期は10世紀前半と考えられる。第4テラスでは大炊屋跡を確認している。時期は9世紀後半～11世紀前半に及ぶ。	仏堂跡と塔跡の位置関係は、 <small>大官大寺式</small> である讃岐国分寺の伽藍配置と相似していることから、中寺と讃岐国分寺は僧侶が修行のために往来する関係にあったと考えられる。

B 地区	8世紀後半～11世紀	仏堂+僧房
各地区の中で、最も早い時期から利用されていたと考えられる。	東に大川山を一望できることから大川山信仰に根ざす活動が行われていたと推測される。	第1テラスで、仏堂跡もしくは割拌殿跡である礎石建物跡、第2テラス、第3テラスそれぞれ僧房跡を確認している。時期は8世紀後半～11世紀に及ぶ。

C 地区	10世紀前半	石組造構
10世紀前半以降に構築された石組造構16基を確認している。中寺廃寺跡と同様の古代山林寺院跡「池辺寺跡」でも石組造構が確認され、石組の塔であることがわかつていて。池辺寺に限らず古代の山林寺院においては、寺域内に建物以外の祭祀的な空間が存在する。中寺廃寺跡の石組造構は谷を隔てて寺院の各建物を見渡せる位置に造られており、中寺の一部を成す。池辺寺跡では整然と並んだ100基の石塔群を遥拝する形で仏堂が建ち、中寺とは異なる。平安時代に記された仏教行事に関する史料「三宝絵詞」によると平安時代中頃には石を積んで石塔とする行為が一般の民衆に広がっていたことが記されている。	C地区は人の立ち入りが希薄であったため平安時代の姿のまま凍結されたと考えられ、民間信仰の様子が伺える地区である。	

2. 史跡中寺廃寺跡の整備における理念

理 念

古代讃岐の神祕的な時空間體驗

史跡中寺廃寺跡が歴史上・学術上価値が高く、自然と融合した遺跡であることを強調しながら、自然環境と調和した整備を行うことにより積極的な活用を行う。

史跡中寺廃寺跡が山岳修行の地であることから、建物等の復元、車道の開設は行わず、ここを訪れるることにより、山奥深い大自然の中で往時の修行僧が身を置いた非日常的な環境を体感し、日々の生活に追われる現代人が、人間本来のあるべき姿を回復することができる場となることを目的とし整備する。

3. 整備事業の基本方針と実現のための必要な事項

(1) 基本方針

① 自然環境との共存

神秘的な空間を体感できる場とするため、自然環境を改変しない軽微な整備に止める。礎石の位置等、遺構全体を発掘調査前の状態で保存・展示することにより、数百年の時の流れを感じることができる史跡とする。

② 史跡の利活用

来訪者に歴史上・学術上価値の高い遺跡であることを伝える情報を提供し、学校教育・社会教育の場として活用する。また、大川山、中寺廃寺跡への登山・ハイキングを通じて、途中の自然環境も合わせて楽しむことができる史跡とする。

③ 周辺地域との連携

中寺廃寺跡と関係する遺跡をネットワーク化し、中寺廃寺跡を核とした普及・啓発事業を実施できる場とする。さらに、中寺廃寺跡近隣の諸施設、諸資源とのネットワーク化を図る。

④ 調査と保存整備の進化

調査地区外への遺構の広がりが想定され、山寺としての全体像がすべて明らかになっているわけではない。

整備事業を契機として、並行しつつ長期的に、未調査地区や史跡指定地外の調査研究を継続し、その成果を反映した保存整備を推進する。

また地域住民をはじめとする来訪者による体感・活用をも踏まえて、様々な観点から古代山林寺院の様相（実像）の探求を促進する。

(2) 基本方針の実現のために必要な事項

- 必要に応じ、発掘調査等を継続的に実施し、史跡指定範囲についても検討を続ける。
- 遺構保存・整備において、礎石周辺の土が流出しない工法とする。
- 掘立柱建物跡の表示方法は遺構面より上において柱位置を表示する。
- 地元住民・ボランティアガイドとの協働により、江畑道・柞野道・大川道の各登山道を利用した自然環境説明付の中寺ハイキング等のイベントを開催する。
- 小中学校の社会科ふるさと学習の場として活用していただくため、学校関係者対象の現地説明会を実施する。
- 他の町内遺跡とともに定期的に役場ロビー展を実施し、また、役場支所、町内公民館においても巡回展を実施する。

- まんのう町観光担当課との連携を緊密にし、町全体として普及活用に取り組んでいく。
- 史跡整備完了後、パンフレットを作成し町内外の公共機関・商業施設に配布することにより、より多くの人に訪れていただけるよう周知していく。
- 中寺庵寺跡と町内の国・県・町指定文化財を組み合わせた「文化財めぐり」を実施し、貴重な文化財として広く周知していく。
- 近年のさぬきうどんブームで関西から徳島県美馬市経由で国道438号線を通り、まんのう町へ入ってくる観光客が増えている。その観光客を対象に、美馬市の史跡郡里庵寺、史跡中寺庵寺跡等まんのう町内の遺跡、琴平町の金刀比羅宮、善通寺市の善通寺などまんのう町とその周辺の文化財・観光スポット・町内商業施設とを組み合わせたルートを紹介しアピールしていく。
- イノシシによる獣害を防止するため、被害状況を把握しながら遭構周辺に進入防止ネットを張る等の方策を講じ、適宜その有効性を検討し、効果向上を図る。

(3) 実施のための検討課題

- 標高約700mの山中にある遺跡であり、平地とはまったく異なる自然環境であるため、遭構の保存処理工法決定前に露出試験を実施する必要がある。
- 公有化されている史跡範囲内は元より、登山道周辺についても自然環境保護対策を行っていく必要がある。
- イベント等開催にあたっては、地元自治会、ボランティア、町関係各課との連携が取れるような組織作りを行う必要がある。
- 見学者がリピーターとして訪れるような魅力的な遺跡整備を実施する必要がある。

4. 史跡中寺廃寺跡の整備事業における《ゾーニング》とそれ を結ぶ《基幹動線》

II-1で示した各地区の遺跡としての構成を踏まえ、整備する範囲とそのまとまりのイメージについて検討し、ゾーニングを行う。

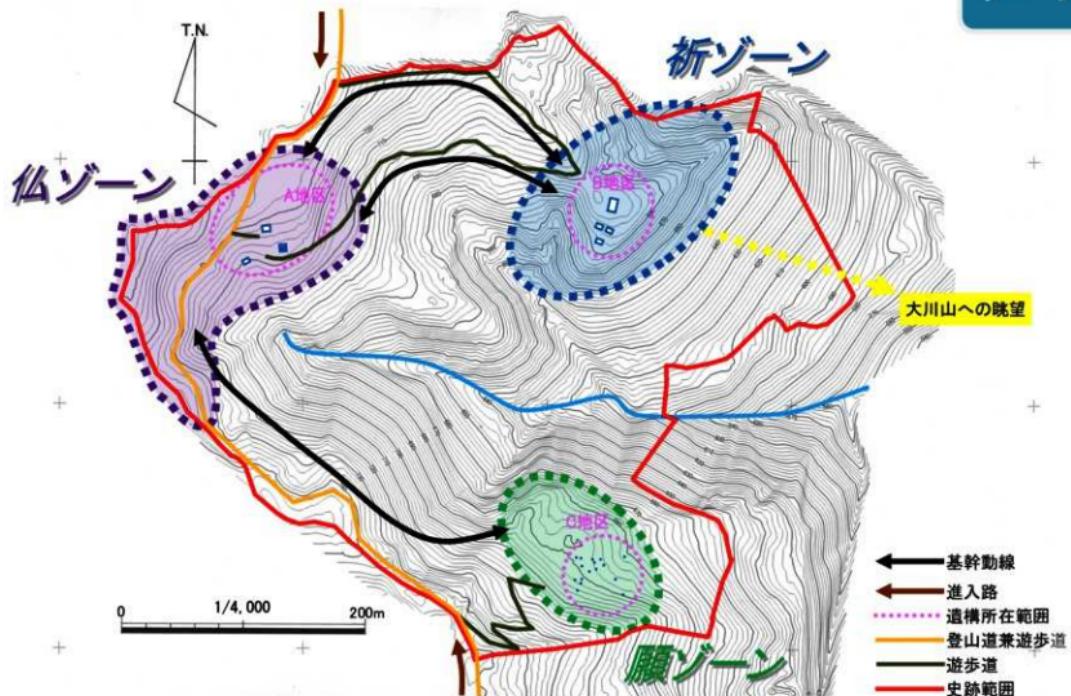
ゾーニングにおける観点

- ① 発掘調査によりA・B・Cの各地区は遺構の性格や変遷の過程にそれぞれ固有の特色があることから、整備事業におけるゾーニングはこれを基本として考える。
- ② 各地区は地形・景観・自然環境と一体となって、それぞれの特質を發揮するものであることから、周辺地域を含めて考える。
- ③ 各地区は一体となって史跡中寺廃寺跡を構成していることから、各地区を緊密に繋げる。

以上の3つの観点より、地形に応じた形で各地区の遺構存在範囲の周辺を大きく捉え、ゾーニングを行うことが適当であると考えられる。

各ゾーンの整備イメージ			
主となる遺構が 存在する地区名	ゾーン名	概要	整備イメージ
A 地区	仏 ゾーン	中寺廃寺跡 の「中核」とな る塔跡、仏堂 跡、大炊屋跡 等が所在す る地区。	<ul style="list-style-type: none">● 往時の活動の様子が推察できるような整備をする。 塔、仏堂、大炊屋の配置・規模等を表示する。 国分寺との競りについて理解を深められるように展示する。
B 地区	山 ゾーン	大川山を遥 拝した礎石建 物跡、僧房跡 が所在する 地区。	<ul style="list-style-type: none">● 山岳信仰について理解を深められるように展示する。 大川山を眺望できるように整備する。● 往時の活動の様子が推察できるような整備をする。 礎石建物跡の礎石を展示する。 僧房の配置・規模等を表示する。
C 地区	ねがい ゾーン	民間信仰に より積まれた 石組が現在 もそのまま存 在する地区。	<ul style="list-style-type: none">● 石組が点在する空間の神秘性を体感できるように整備する。 石組から離れた位置で全体を展望できるように整備する。● 往時の活動の様子が推察できるような整備をする。 石組を展示し、石組体験ができるような区域を整備する。

ゾーニング図



II. 史跡指定地及びその周辺(近接地)に関する検討
5. 整備事業において具体的に機能する施設配置の検討

5. 整備事業において具体的に機能する施設配置の検討

(1) 史跡指定範囲内について

理念・基本方針・ゾーニングに基づき史跡範囲内における具体的な機能配置を検討する。検討にあたり、**遺構の保存・活用**、**来訪者の休憩・便益**、**景観・環境の保全**の3つの観点を柱とする。

現状は、道については発掘調査のための作業道があるが天候によっては歩き難い箇所がある。道標は分岐点に簡易の看板を設置しているのみである。休憩施設等はなく急な天候の変化には対応できない。説明板については遺構の名称のみ簡易の看板で表示している。各地区の調査範囲内の樹木は伐採済みで、遺構については調査後、埋め戻した状態で建物の範囲をビニールテープで簡易表示している。

史跡範囲内施設設置場所一覧表		
ゾーン	番号	説明
A地区 仏ゾーン	1	史跡指定範囲中では最も展望が良く満濃池、象頭山はじめ香川県の平野部ほぼすべてが一望でき東屋程度の平場が確保できる。また、靈峰大川山の雄姿を間近に眺望することができ、なぜ中寺廃寺がここに位置したか体感できる場所である。柞野、江畑からの導入部であり、登山者の休憩所として時間的、距離的に適している。
	2	柞野、江畑からの登山道が合流する場所で、北側のルートから来た場合、史跡指定範囲に入る最初の場所である。
	3	柞野・江畑から大川山への登山道であり、史跡指定範囲内においては北側導入部と南側導入部を結ぶ幹線となる遊歩道である。
	4	平場がある程度確保できる。仏ゾーンと祈ゾーンの中間に当たる。軽車両が進入できる最奥である。
B地区 祈ゾーン	5	北側のルートから来た場合、展望地点から祈ゾーンへの導線である。
	6	仏ゾーンと祈ゾーンを結ぶ導線である。
C地区 願ゾーン	7	南側のルートから来た場合、最初の中核地区である願ゾーンへの導線である。
	8	現在の作業道が史跡指定範囲外にあたるため新規に敷設。願ゾーンの特徴である神秘性を守る、また石組の人的破壊を防ぐという観点から、遊歩道は手前の傾斜部分から展望できる位置で止める。

II. 史跡指定地及びその周辺(近接地)に関する検討
5. 整備事業において具体的に機能する施設配置の検討

(2) 史跡範囲外について体裁

理念・基本方針・ゾーニングに基づき史跡範囲内における具体的な機能配置を検討する。検討にあたり、**史跡の活用**、**来訪者の便益**、**景観・環境の保全**、**周辺住民への配慮**の4つの観点を柱とする。

現状は、車道についての交通量はあまり多くなく、舗装され道標は未設置である。登山道兼遊歩道については一部倒木、道の崩落等危険な個所が存在し、道標は柞野道のみ簡易の看板を設置している。説明板は未設置である。江畑道・柞野道駐車場については整地・舗装の必要がある。

史跡範囲外施設設置場所一覧表

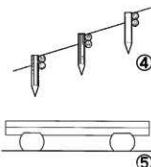
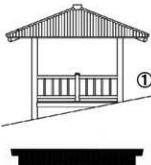
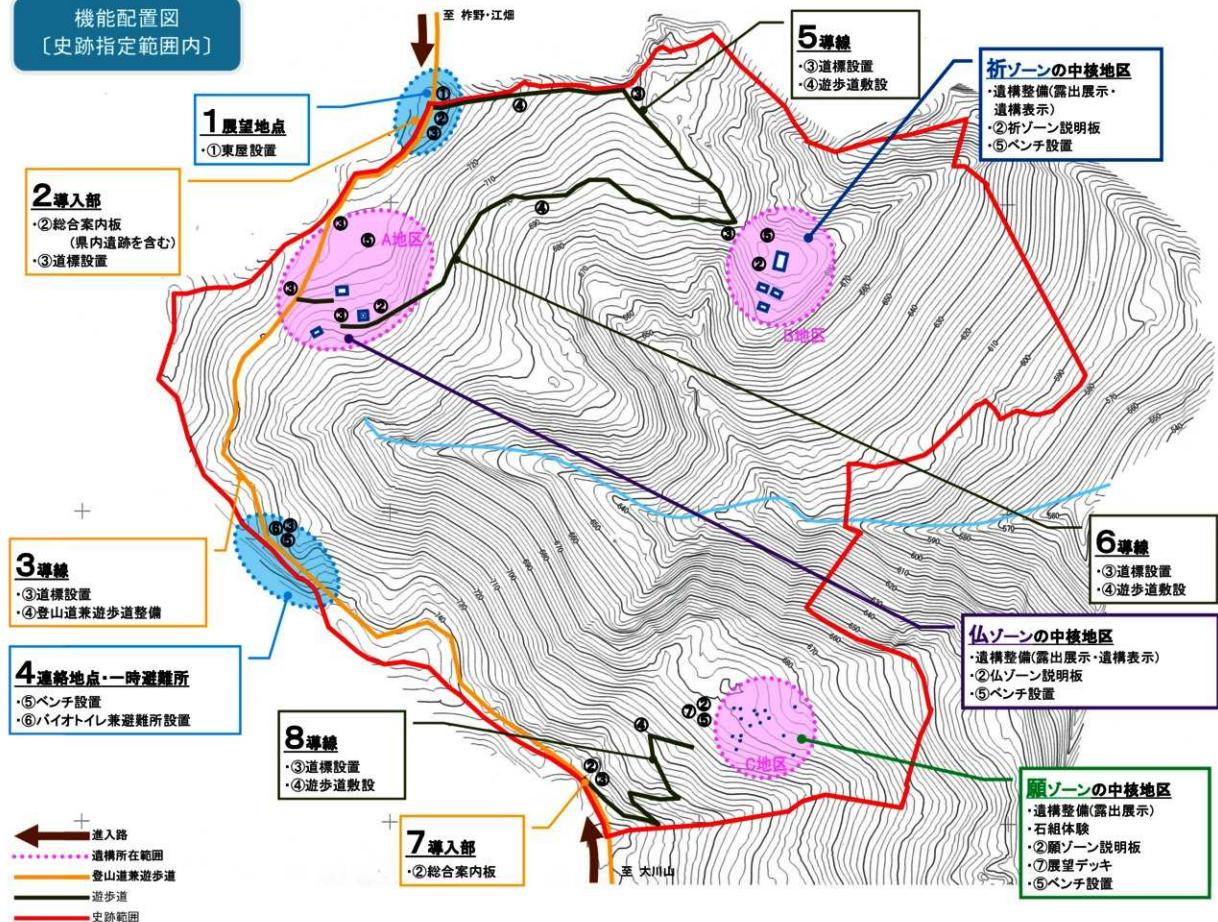
道	番号	概要
江畑道	1	国道 438 号から塩入、江畑方面へ向かう町道との分岐点である。
	2	国道 438 号から伸びる町道と広域農道との交差点である。
	3	広域農道から塩入、江畑道方面へ向かう農道との分岐点である。
	4	塩入温泉方面と江畑道方面との分岐点である。
	5	塩入温泉への分岐点である。
	6	江畑道を通り中寺廃寺跡、大川山に向かう場合の駐車場が確保できる。
	7	江畑道の起点である。
	8	江畑道駐車場と中寺廃寺跡との中間点である。
	9	古くから大川山参道として通行されてきた登山道である。
	10	江畑道駐車場と中寺廃寺跡との中間点である。
	11	江畑道駐車場と中寺廃寺跡との中間点である。
	12	江畑道、柞野道の合流点である。
	13	江畑道と支線との分岐点である。
柞野道	14	国道 438 号線から柞野方面へ向かう町道との分岐点である。
	15	柞野道の起点である。
	16	柞野道より中寺廃寺跡、大川山に向かう場合の駐車場が確保できる。
	17	柞野道駐車場と中寺廃寺跡との中間点である。
	18	古くから大川山参道として通行されてきた登山道である。途中、炭焼き窯が残る。

II. 史跡指定地及びその周辺(近接地)に関する検討

5. 整備事業において具体的に機能する施設配置の検討

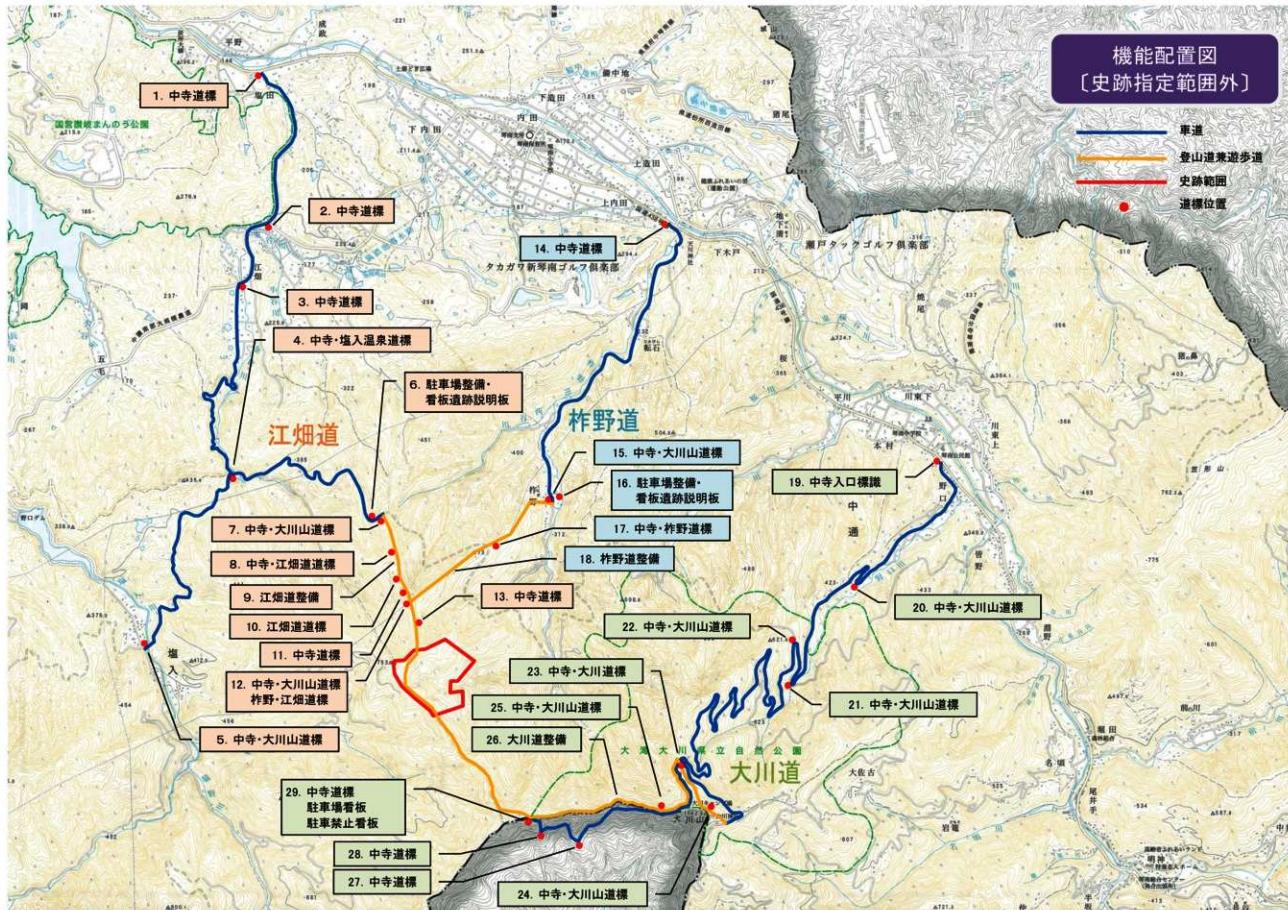
道	番号	説明
大川道	19	国道 438 号線から中寺廃寺跡への分岐点。大川山キャンプ場の標識はすでに設置されている。
	20	町道と農道との交差点である。
	21	町道と広域基幹林道との交差点である。
	22	町道と広域基幹林道との交差点である。
	23	中寺廃寺跡方面と大川神社、大川山キャンプ場との分岐点である。
	24	大川山から中寺廃寺跡方面への登山道分岐点である。町道から中寺廃寺跡方面への車道分岐点である。
	25	大川道と車道の交差点である。
	26	古くから大川山参道として通行されてきた登山道である。
	27	中寺廃寺跡と徳島方面との分岐点である。
	28	中寺廃寺跡への分岐点である。
	29	中寺廃寺跡へ徒歩で向かう場合の入口である。自家用車で進入できる最奥である。周囲は駐車禁止となっているため駐車はこの駐車場に限られる。

機能配置図
[史跡指定範囲内]



- 57 -

II. 史跡指定地及びその周辺(近接地)に関する検討
5. 整備事業において具体的に機能する施設配置の検討



III. 事業スケジュール等

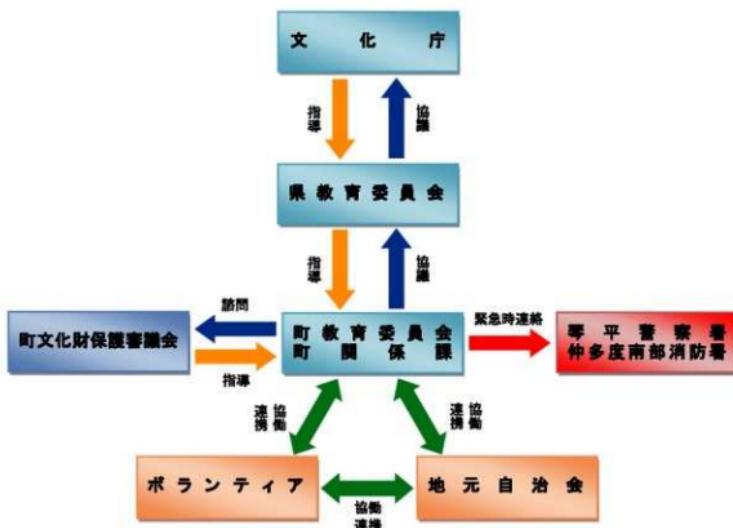
1. 史跡整備実績およびスケジュール

実施年度	史跡範囲内		史跡範囲外	
	内業	外業	内業	外業
平成 20 年度	・整備計画	・史跡買い上げ	・整備計画	・支障木伐採
平成 21 年度	・整備計画 ・全体設計		・整備計画 ・全体設計 ・実施設計	・登山道整備(柞野道) ・駐車場整備(柞野道) ・支障木伐採
平成 22 年度	・全体設計	・支障木整理	・全体設計	・支障木伐採
平成 23 年度	・実施設計	・造構整備 ・仮ゾーン(A地区)遊歩道敷設 ・仮ゾーン(B地区)遊歩道敷設 ・仮ゾーン(A地区)説明板設置 ・仮ゾーン(B地区)説明板設置 ・道標設置 ・北側導入部総合案内板設置	・実施設計	・登山道整備(大川道) ・道標設置(柞野道) ・道標設置(大川道) ・遺跡説明板設置 (柞野道、大川道駐車場) ・樹木名表示
平成 24 年度	・実施設計	・造構整備 ・顧ゾーン(C地区)遊歩道敷設 ・顧ゾーン(C地区)説明板設置 ・南側導入部総合案内板設置 ・顧ゾーン(C地区)展望デッキ設置 ・トイレ設置部分の発掘調査	・実施設計	・登山道整備(江畑道) ・駐車場整備(江畑道) ・道標設置(江畑道) ・遺跡説明板設置 (江畑道駐車場)
平成 25 年度	・実施設計	・ベンチ設置 ・トイレ設置 ・東屋設置	・実施設計	・道標設置(車道)

2. 管理・運営体制

- ① 中寺廃寺跡までの登山道の管理については、町教育委員会とボランティアとの協働により草刈・ゴミ拾いを年4回実施する。
- ② 自然破壊、盗掘防止、獣害防止を図るため、町文化財担当により史跡範囲内及び登山道周辺の巡回パトロールを月2回実施する。
- ③ 災害・事故等緊急時の連絡先を案内板に入れておく。
- ④ 緊急時の連絡先はまんのう町役場とし、役場から担当者・消防・警察へ連絡をする。
また、登山道入口付近の地元自治会との連携を図り、災害・事故発生時の対応として町と地元自治会との協力体制を整える。
- ⑤ 中寺廃寺跡付近は携帯電話通話圏外の場所が多く緊急時の連絡が取れないため、携帯電話会社に基地局アンテナ設置を依頼する。

連絡協議体制図



参考文献

香川県レッドデータブック

琴南町誌

琴南町町勢要覧 平成4年3月31日発行

新修満濃町誌

仲南町誌

まんのう町総合計画 平成20年3月発行

まんのう町町勢要覧 2008

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第3集 中寺廃寺跡

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第4集 中寺廃寺跡 平成19年度

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第5集 満濃池総合調査報告書

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第6集 中寺廃寺跡 平成20年度

参考ホームページ

香川県教育委員会ホームページ 香川の文化財

(<http://www.pref.kagawa.jp/kenkyoui/bunka/dosuru/5-6.php>)

香川の環境 香川県レッドデータブック

(<http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/shizen/rdb/index.htm>)

気象庁ホームページ 過去の気象データ検索

(http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/select/prefecture.php?prec_no=72&prec_ch=%8D%81%90%EC%8C%A7&block_no=&block_ch=&year=&month=&day=&view=)

国指定文化財等データベース

(<http://www.bunka.go.jp/bsys/index.asp>)

国土交通省 水文水質データベース 水門水質観測所情報

(<http://www1.river.go.jp/cgi/SiteInfo.exe?ID=108081288804004>)

第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査 情報提供ホームページ 2次メッシュ情報

(<http://www.vegetation.jp/miru/5133/513317.html>)

**史跡中寺廃寺跡
保存整備基本計画**

平成 22 年3月 31 日 発行

編集・発行 まんのう町教育委員会 中寺廃寺発掘調査室

〒766-0202

香川県仲多度郡まんのう町中通 875 番地 琴南公民館内

電話 (0877)85-2221

印 刷 株式会社 弘栄社